

シンポジウム「受委託組織による良質粗飼料生産の現状と展望」

十勝における農作業受委託事業の取り組み

町 智之*・五十川 利広**

Present conditions of the contracting services for agricultural works in Tokachi area

Tomoyuki Machi, Toshihiro Isokawa

はじめに

十勝における農作業受委託（コントラクター）組織の草分けは、1971年に設立された中札内村の中島機械センターである。当初の目的は農家における機械コストの削減であり、ドイツのマシーネンリングを手本としていた。

1990年代に入ると酪農経営の規模拡大の進展に伴い、酪農家の労働軽減と良質な粗飼料の安定生産を目的として、各地で農作業受委託事業の取り組みが始まった。また、1997年から実施された飼料生産受委託組織育成特別対策事業は、コントラクター組織育成の追い風となった。

そのようななか、十勝管内農協農作業受委託事業研究会は会員相互の連携をとりながら効率的な受委託事業の実現を図ることを目的として1998年に組織された。

以下に本研究会の取り組みと、コントラクター組織として充実した運営が為されているJA鹿追町のコントラクター事業について紹介する。

1. 十勝管内農協農作業受委託事業研究会の取り組み

1) 目的と構成

本研究会の規約では、「十勝管内農協が関与する農作業受委託事業の健全な発展を図るため、各種調査研究、情報交換、研修会等を行い、効率の高い受委託事業の実現を目的とする。」となっており、会の構成員は、①十勝管内で農作業受委託業務が行なわれている農協、②その他必要と認められた団体等である。発足当初は12JAであったが、現在は20JAが参加、実際に事業を行なっている組織は30以上を数える。

2) 年間の活動

コントラクター組織のマネージャーやオペレーターを対象とした研修会は年に1回開催し、内容は労働関係法令やサイレージの調製技術、農作業事故の防止など多岐に亘る。研修会に合せて、農協担当者とマネージャーによる会議を持ち、各組織における事業実績の報告や組織運営の課題について話し合いをしている。

管外優良事例の視察は管外のコントラクター組織を訪ね、現地での作業見学を交えながら情報や意見の交換を行なうものであり、毎回50名を越える参加がある。

3) コントラクター事業の指標

十勝のコントラクター組織は、充実したサービスの提供と経営基盤の安定化に向けて成長してきた。2002年には、農協系統組織で構成するJAネットワーク十勝において、コントラクター事業の健全な発展を図るための指標を定めることとなり、本研究会はその策定作業を担うこととなった。

指標は、①組織のあり方・運営方法、②コントラクター利用率の将来目標、③主要な作業の料金について設定している。

①では農協の営農指導部門と連携し利用農家に対するアドバイス機能を高めること、マネージャーやオペレーターの育成に努めること、コスト意識を高め健全な財務基盤を確立することなどを掲げている。

②では2007年と2012年の目標値を設定している。表1にある通り昨年の実績は2007年の目標を超えており、当時描いた予想を上回る勢いでコントラクター事業の普及は進んでいる。

表1 十勝管内コントラクター事業の利用実績と目標値

| 項目 | | 2002年 | 2003年 | 2004年 | 2005年 |
|-----|-----------|---------------------|--------|--------|--------|
| 牧草 | 栽培面積 (ha) | 69,587 | 71,748 | 69,298 | 69,877 |
| | 利用面積 (ha) | 7,038 | 8,339 | 9,272 | 11,177 |
| | 利用率 (%) | 10.1 | 11.6 | 13.4 | 16.0 |
| | 利用率目標値 | 2007年：15%、2012年：20% | | | |
| 飼料用 | 栽培面積 (ha) | 16,054 | 15,967 | 16,028 | 15,462 |
| | 利用面積 (ha) | 3,806 | 4,205 | 4,521 | 5,291 |
| | 利用率 (%) | 23.7 | 26.3 | 28.2 | 34.2 |
| | 利用率目標値 | 2007年：30%、2012年：40% | | | |

注) 栽培面積は十勝畜産統計による。

* 十勝農業協同組合連合会 (080-0013 北海道帯広市西3条南7丁目14番地) Tokachi Federation of Agricultural Cooperatives, Obihiro, Hokkaido, 080-0013, Japan

** 鹿追町農業協同組合 (081-0293 北海道河東郡鹿追町新町4丁目51番地) Shikaoi Agricultural Cooperative, Shikaoi, Hokkaido, 081-0293, Japan

③では大型機械の更新に必要な財源を賄うための内部留保を考慮したうえで、作業効率が異なる平坦地と傾斜地に分け料金を設定している。

2. J A鹿追町におけるコントラクター事業

1) 特徴

J A鹿追町におけるコントラクター事業は、2年余りの準備期間を経て1993年に始まった。農協直営のメリットは、営農指導と絡めた事業展開を可能としていること、利用者である組合員の意見が反映され組合員に支持されていることであり、単なる作業の請負とは一線を画す。

牧草収穫においては、農協の営農指導部門と普及センターとの協議により収穫開始時期が決められる。また、チモシー(約1,450ha)とオーチャードグラス(約650ha)の収穫時期を調整することで、収穫機械の利用効率を高めている。また、利用者の代表で構成される作業受委託事業推進部会により、効率的で充実した運営が図られている。

2) 利用実績

2005年にコントラクター事業を利用した農家は215戸(全体の78%)であるが、利用が最も多かったのは堆肥散布の143戸であり、一番牧草の収穫は68戸、飼料用コーンの収穫は63戸が利用した。

表2 J A鹿追町のコントラクター利用実績(2005年)

| | | 面積 (ha) | 時間 (時間) | 戸数 (戸) |
|------------------|-----|------------|------------|-----------|
| 牧草 収穫 | 一番草 | 2,083 | | 68 |
| | 二番草 | 1,723 | | 57 |
| | 三番草 | 678 | | 32 |
| | 計 | 4,484 | | |
| 飼料用コーン収穫 | | 783 | | 63 |
| 液肥・除草剤散布 | | 628 | | 46 |
| 堆肥散布 | | 1,736 | | 143 |
| 耕起 | | 546 | | 57 |
| 簡易耕起 | | 100 | | 14 |
| 整地 | | 786 | | 60 |
| 鎮圧 | | 229 | | 39 |
| 牧草施肥 | | 99 | | 13 |
| 融雪剤散布 | | 474 | | 40 |
| 牧草播種 | | 235 | | 40 |
| 飼料用コーン施肥・播種(耕起) | | 319 | | 31 |
| 飼料用コーン施肥・播種(不耕起) | | 180 | | 23 |
| 石灰散布 | | 80 | | 12 |
| 堆肥運搬 | | | 1,074 | 118 |
| 心土破砕 | | | 24 | 14 |
| スラリー散布 | | | 681 | 21 |
| 堆肥切返し | | | 166 | 20 |
| ビート移植 | | 30 | | 4 |

3) 効果

J A鹿追町の酪農家1戸当りの平均乳牛飼養頭数は151頭であるが、このような大規模経営を可能にしたのは農作業支援も含めて酪農経営の分業化を進める農協の戦略によるところが大きい。酪農家は、後継牛の哺育・育成、飼料生産などを外部に委託することで、飼養管理と搾乳に専念することができるようになった。また、粗飼料生産をコントラクター組織が担うことで生産コストを下げるスケールメリットが発揮されるほか、専門の技能や知識を有するオペレーターにより粗飼料生産技術の高位平準化が図られ、粗飼料の品質が向上した。

一方、間接的ではあるがコントラクター事業は交換耕作を取り組み易くすることで連作障害の軽減と堆肥の利用を促しており、畑作農家における農薬・肥料代の節約と酪農地帯にとって大きな課題である家畜糞尿の有効活用に一役買っている。

また、農家にとっては経営規模拡大の際にネックとなる労働力確保の問題が解決できるほか、余分な作業・運搬機械を持たないことで機械コストの大幅な低減を図ることができる。

このようにコントラクター事業は、農家に対する労働支援や生産コスト低減の効果を発揮しており、農家の経営規模拡大にも貢献している。

4) 課題

コントラクター事業の成否は農家の信頼を得られるかどうかにかかっており、質の高いサービスを安価で提供することが求められるが、事業推進上の技術面、運営面の課題は次のようなものである。

技術面における一番の課題は良質な飼料を生産することである。事業開始当初は作業を請け負うだけで利用者に喜ばれたが、その後幾度か天候不順の年があり作業の遅れと飼料品質の低下が問題となった。そのため、利用面積の拡大に合わせて機械の大型化と作業体系の見直しを図ってきた。収穫作業は天気との勝負であり、常に最新の気象情報を参考にしながら運行スケジュールを組み、圃場確認にはGIS(地図システム)を利用、迅速で確実な作業を行なうよう心がけている。

また、優秀なオペレーターの養成も重要である。そのためには機械の操作技能にとどまらず、農業の基礎的な知識の修得が必要である。例えばサイレージの踏み込み作業をするオペレーターには、良質なサイレージを生産するためには何をすべきか(または何をすべきではないか)を考えて作業に当たらせている。

運営面における大きな課題は安全な作業運行である。とりわけ天候不順の年は作業の遅れからあせりが生じるが、決して無理な運行をしないことが大切である。また、コントラクター組織では農閑期の仕事の確保が課題であるが、J A鹿追町では機械整備を自前で行なうなどして通年の仕事を確保している。